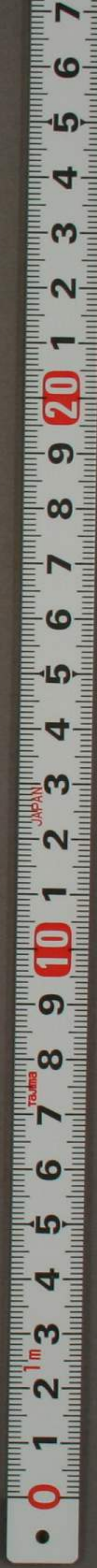


五畿内産物圖會

山城之部



31
4204
5





也山
 計博
 毛園
 漢美

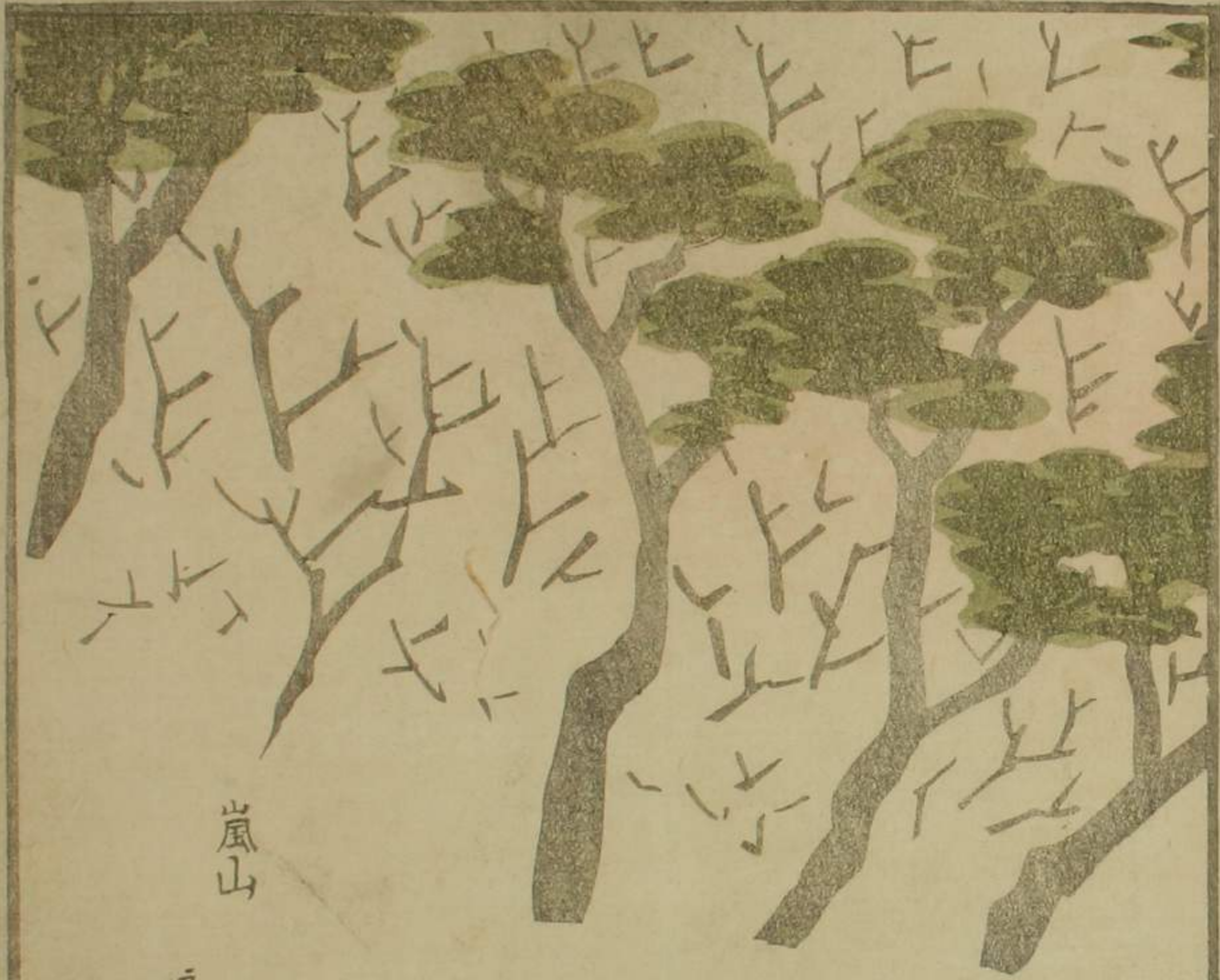


天不年平子



31
 4204
 5

昭和六年土六日寄
 市島謙吉氏贈



嵐山

浪巻

夫山



ほうんまやまき花のさくらけ
 夏一死るや三ろり
 嵐山いし
 浪速 雪頂齋桃苗
 長巻
 砂角



そらそら風絶て

ふみりりりり

積良

かゝるよつせくらや

ふのあししちゆ

浮きれさる?

ちんころんふの

浪速 秋梧子

よきふ富田

廿三津田

魯州

よりの志保の

ナヌキ高松

漱石

人の

修来也

後月橋

きつぬまうそ

り

やう

月をや花よももつるこ新あ嵐の山とむこふうてそ

ま

可右

花ぬまぬ散ふかふるふふふいおふたういもあふしゆぬ

醉月

ふ代終へき龜の尾山おむふもふふいふもふた嵐山

田勢

吾世よりこむりの花の都なりたういあふしゆぬのけけい

子行

月の懐ふ時鳴いあふとふふふふと嵐の山ぬぬのたの雲

笹丸

せ成まつれ山暖まの葉より
吾屋冬候のそとことかうて
あふ硯石

浪速

カ丸

たふらふやまらも

空丸

よらふ山暖隊さうり

まらふふおさうふおちて
たいそて

吾人のほあふ暖隊さうり

ふたふふいあふく硯石の

おき深くおふ



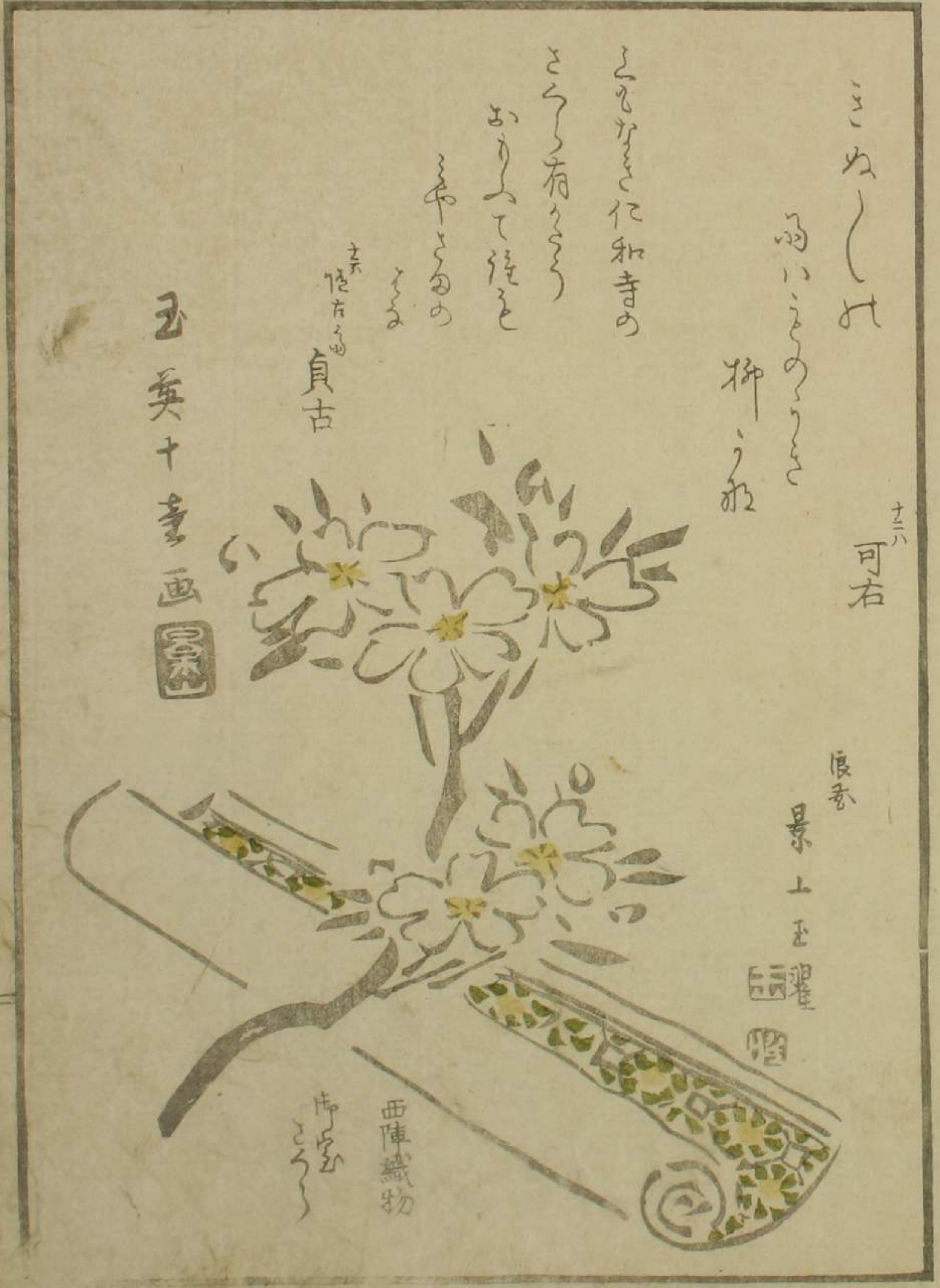
まのり硯

硯石

陶青

浪速

高松



こいぬしれ

可右ナニハ

辰香

景上玉景上玉

柳柳

こゝろに和寺の

こゝろ有る

おりにて後と

糸の

正

負古

玉英十畫



西陣織物

西陣織物

阿加

月虎



出口の折

燕子花ナニハ

揚枝揚枝

吹風吹風

せふかり

せんせいのもん小柱ハキ

おらの柳ハ金巻れ

笹丸ナニハ

七十九

浪華

東岳園

八つんびとていそしそ
貴殿いふ時東岳の
かしく草なり

浪速 須山鬼澄

東寺きん切るもまきん
ひいやりと小児ひと口の
味やおもいす

十六
青蛾



東寺
か
つら
羊

おれらら小

千本さて

水菜賣

十二

方水

とくこの都れ

水菜名也て

およたらひも

主生れ

あしもの

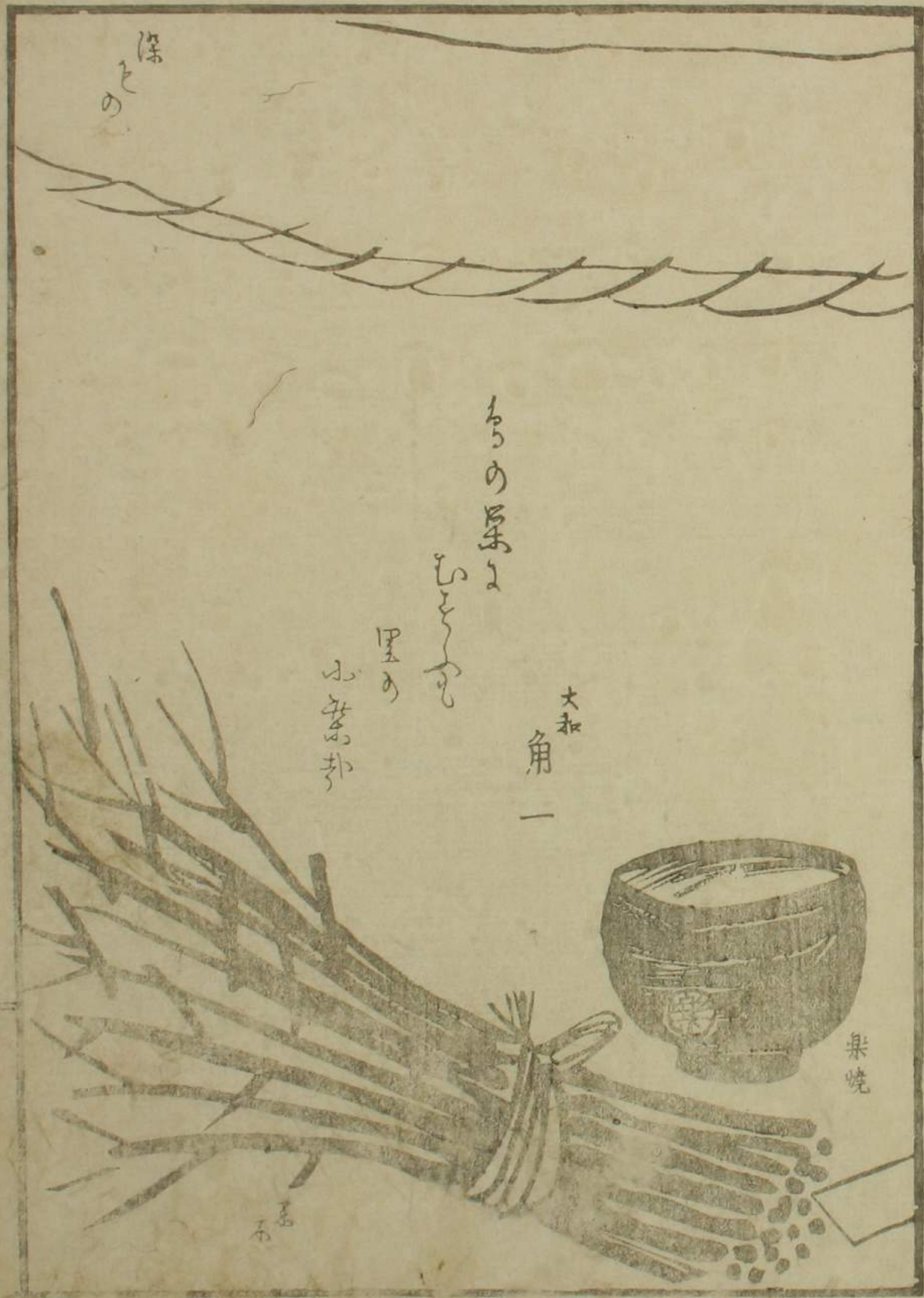
湖水



主生
菜

京
ね

十六
柳堂





秋の蝶

ふらふらと

はら

り

其流

ささち萩

浪

相流

九山

浪

松



眞途もろの紙園

茶店ふいつとをてても

かうせんの家

采雲

風をれちりの粉

な〜んあさおいと

諸方へま〜紙室香煎

車庭

富士な〜ぬ初おふ〜ハ名もろれ

ことハ波河治あまハ法奥

湖水



十六 春喜園

耳塚の修つれもなす
園つゝき

大佛様の

きんぎょのえせ

浪速不仙

後まつてハ

ふろりのうらた

あまの

名ハ通天小きえ

きんぎょ

十六 法吉の

貞古



通天もろ

焼酎小糸の太く大巡り

らん小う入の清水系碗

弓舞ふと系れ子像と

きんぎょの土やうらた

机ハ清り

十六 青磁

南行ちて

きんぎょの

からーきんぎょ

正竹

新汁通り

きんぎょ

十六 河丸



加州

松山通

法吉





ふけらふ
とととせ
うらたぬの
とととぬの

土井
西
浪速
舟丸
浪赤
押

浪速
舟丸

浪赤
押

伏見
人形



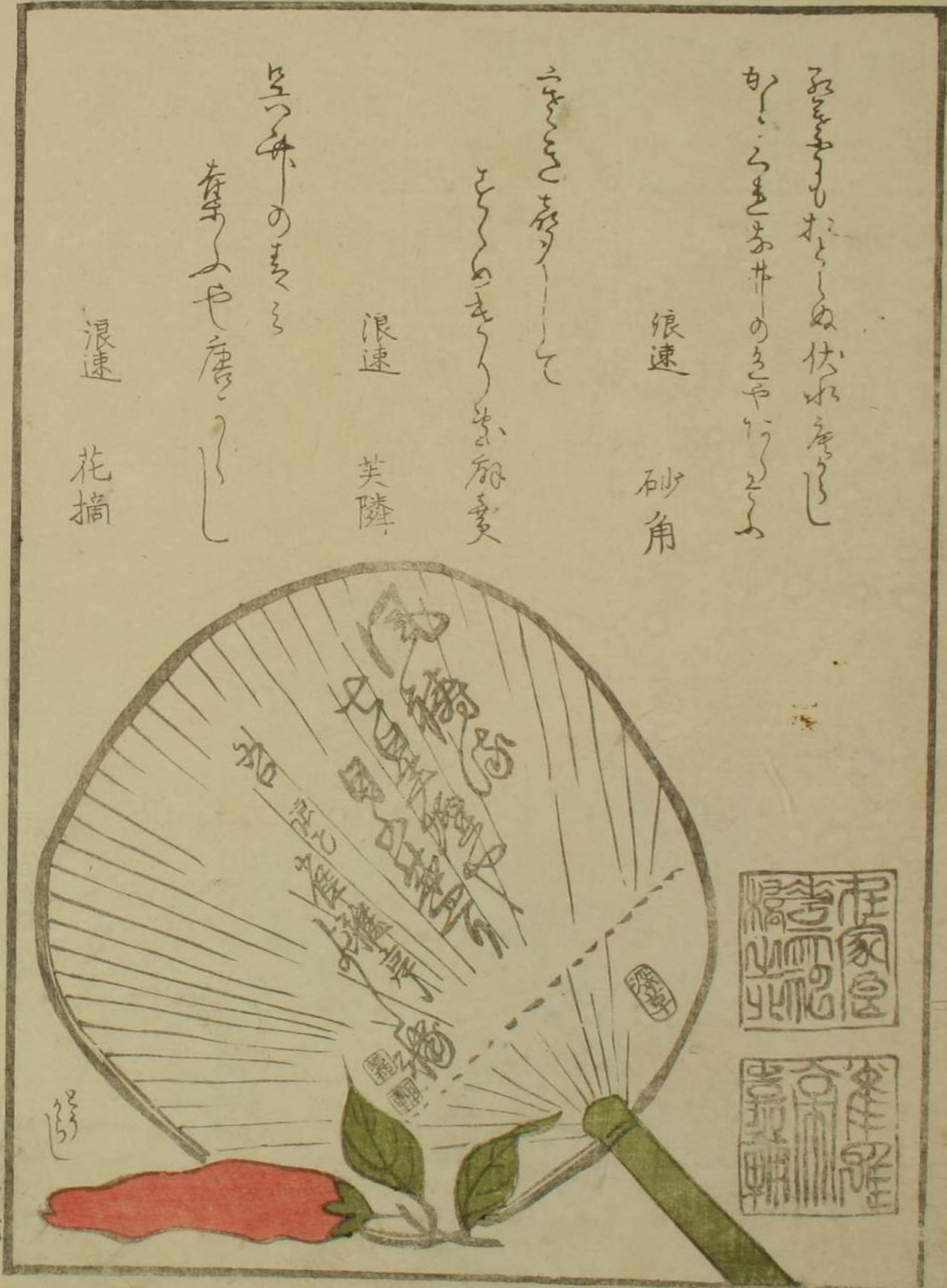
みきりたて
たぶんよくし
おん
おん
おん
おん
おん

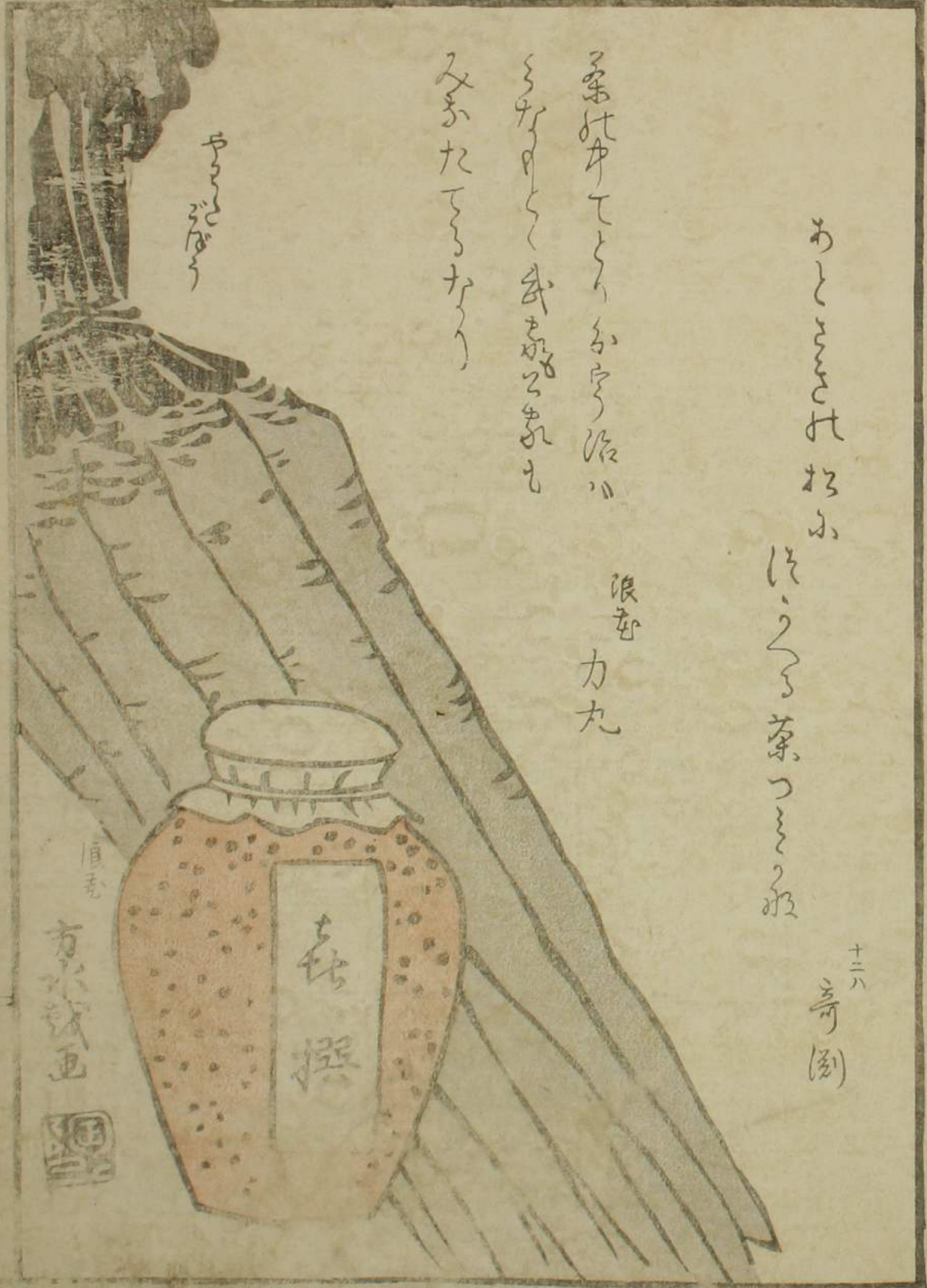
ヤ
可翠

浪華
幸丸

東讚

版屋





辰寺

方水亭



山吹也

さうらう

深江

巴丈

お水は流

流て行く垣不れ

醉月

たけは低きと

うへ紙さいかし

井出のふり

ふみの

うらうら新よ行くよの

そくも旬人井まけむ水



かへつ

井山吹

昭府

雲ふいさかむすいさか井まのまひのえつれおほき山吹

朶雲

根引く宿の花も流るる中低矮れいろふ井まの山吹

槿花

方便のきうう井まの山吹をくもほほのきうう

空丸

雲の船とさうらうあてれ川浪よ花のえさうらう

庭茂

流るるくも花もさうらうい千をなまねらしたる井まの山吹

銭丸

ふらむの甲も井まの山吹いりうもさうらうのたけと花を

柵葉

ふれも中らうのさねる山吹のあてれ川うらうれ流るる

一雛

種えせぬ甚ふむれむ川よまきいりうらう井まの山吹

青蛾

さうらうの山吹も井まの山吹よまきいりうらうのたけと花を

魚鱗

花のさうらうの山吹とあてれ川のうらうも井まの山吹

廉幸

たれは物いりぬもさうらうの群集してこれあての山吹

吳房

一滄亭

後序

周禮畫繪可雜五色後秦功云秦漢以
總矣以今時畫強親之則自白而受采竟
使衆人入青眼中也大凡風流三味伎倆
不可猜算就中學文之道艱矣險矣容易
不可攀焉琴棋茶花亦是一凡流而平坦
不苦切恨有未免俗趣者書畫之為物雅
俗相弄既然書者簡率而難切意重老
岐而多慣習只專擬諸形容也至其妙境
別洗濯煩腦棄其精神及其自娛則閉戶

亦實何厭之有謝在杭既云畫役人確哉
此言屬東野山人編五筆內名產集昂白
紙以受彩色且顯以諸彥之詩文園風也
書畫亦合心也小生一閱之則近雅而不
俗多聚毫端風致且餘私想當是莫來
士沈閨女子之卧遊裝具歟然別縱令
者役人之勞亦夙流伎倆佳趣不少耳果
東野宿意竟使衆人入眼中焉
文化八年未歲仲秋日

浪華屋江鬼瓦漁人頭圖圖

浪華

大原東野民聲輯錄

文化十年癸酉十一月新刻

塩屋平助

合

塩屋長兵衛

河内屋喜兵衛

梓

河内屋太助

大阪書林

